

## 秋田県秋田工業用水道事業の紹介

### ○事業の主旨

昭和40年11月1日、国の指定を受けた「秋田湾地区新産業都市建設計画」の一環として、秋田臨海工業地帯の新規立地企業に工業用水を供給する目的で実施されたものである。

### ○事業の経緯

秋田工業用水道は、昭和43年4月に給水能力を日量150,000m<sup>3</sup>として、秋田湾地区の建設工事に着手した。昭和46年に、企業の増量計画等が確定し、将来の増量が見込まれたことから、給水能力を日量200,000m<sup>3</sup>に変更し、設備の増設と併せて工事を進め、昭和46年7月から給水を開始した。その後、昭和59年5月に、新産業開発計画に基づくテクノポリスの指定を受けた秋田市御所野地区の新規立地企業へ日量6,000m<sup>3</sup>を供給するため、平成2年度から拡張工事に着手し、平成3年6月から給水を開始している。また、給水開始から30年以上経過し、施設の老朽化が進み、平成10年度から平成20年度の11カ年計画で施設全体を対象に改良工事を実施している。

### ○ユーザーの概要

(平成18年5月現在)

業種	給水件数	基本水量 (m <sup>3</sup> /日)
染色	1	1,200
製紙	1	120,000
製材	2	1,700
医薬品	1	5,000
非鉄金属	2	8,220
電機	5	7,860
電力	1	8,000
石油	1	1,000
官公庁	6	5,058
その他	4	1,300
合計	24	159,338

### ○工業用水道施設の概要

秋田工業用水道事業は、一級河川雄物川右岸に取水口を設け取水し、取水された原水はポンプにより、導水管(1,400×1,400mm)にて沈澱池内へ送水され、薬液注入により浄水された後、2箇所配水池(勝平及び御所野)に、ポンプにより送水し、配水池より自然流下で24社の各受水企業に供給している。

水源の内訳は、表流水が日量150,000m<sup>3</sup>、ダム貯留水が日量50,000m<sup>3</sup>で、併せて200,000m<sup>3</sup>となっている。また、送水管延長は秋田湾地区でL=6,193m(管径φ1,200mm)、御所野地区でL=6,045m(管径φ400mm)、合計L=12,238mである。配水管延長は秋田湾地区でL=12,094m(管径φ1,100~250mm)、御所野地区でL=2,509m(管径φ350~250mm)、合計L=14,603mである。送水管と配水管を併せた全体管路延長はL=26,841mである。

### ○事業の特徴

- ・水源の源は奥羽山脈からの流水であり、途中ダム(玉川ダム・高さ100m)で必要補給水が確保されているため、渇水の心配はない。
- ・更に将来の工業振興を図るため、日量400,000m<sup>3</sup>の水源を確保しています。

### ○秋田県企業局のホームページアドレス

<http://www.pref.akita.lg.jp/>

# 秋田工業用水道事業概要図

全体管路延長 L=26,841m

○工業用水道給水区域図

